

青少年 はちのへ



かがみ

青少年健全育成シンボルマーク



【発行】 第94号

八戸市教育委員会教育指導課

八戸市内丸一丁目1-1

Tel 43-2111(内6111)

Fax 47-4997

Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp

平成30年3月7日号

地域全体で

規範意識と正義感の醸成を！

「八戸市青少年問題協議会」が2月16日に開催されました。平成30年度の青少年健全育成の活動について協議し、具体的な提言としてまとめました。以下の提言は、八戸市の子ども達の健やかでたくましい成長を願い、家庭、学校、地域社会、企業、民間団体、関係機関の連携のもと、それぞれの立場から積極的に推進していただきたいことです。

平成30年度 青少年健全育成の活動提言

活動提言「子どもたちは地域から育む」という視点による連携強化

〔提言内容〕

1 「さわやか 八戸 あいさつ運動」の展開

八戸市内すべての家庭、学校、地域社会、企業、団体等のあらゆる場面で、「さわやかなあいさつ」が飛び交うよう啓発・参加を推進する。また、家庭や学校で基本的な生活習慣を身に付けさせるための「返事をきちんとする運動」「履き物を揃える運動」と、さわやかでクリーンなまちづくりを目指して「ゴミ拾い運動」を展開する。

2 青少年の健全育成の基盤となる「地域コミュニティ」の形成

- (1) 家庭や地域を巻き込んだ社会体験学習を展開する。
- (2) 青少年のボランティア活動の拡充を図るとともに、地域のボランティア活動への参加を推進する。
- (3) 社会人や地域人材の学校への活用を促進する。
- (4) 周りから子どもをサポートしていくために、日頃から地域住民や地域の諸団体、関係機関、学校などとの連携のもと、情報を速やかに把握し、巡回指導や声かけ活動をする体制を整える。

3 健全な家庭づくりへの支援

- (1) 「家庭の日」運動等の実践を通して、健全な家庭づくりの促進を図る。
- (2) 父親の子育て参画等を促進し、家庭教育の学習機会の充実を図る。
- (3) 子育てに関する体験や悩みを共有できる「乳幼児をもつ親たちの交流の場」の設定を図る。
- (4) 家庭での読書の推進を図り、子どもの豊かな心を育む。
- (5) 関係機関の広報啓発活動の内容充実と配付対象の拡充を図る。

4 体験活動の推進

- (1) 青少年団体における活動など学校外活動への参加を奨励する。
- (2) 自然体験活動を推進する。
- (3) 身近な体験活動の場の活用を図る。



5 いじめ問題、万引き、インターネットトラブル、薬物乱用問題等、今日的な課題への適切な対応

- (1) いじめ問題の解決に向けた取組の充実を図る。
- (2) 万引きやインターネットトラブル、喫煙、薬物乱用問題等への対応の充実を図る。
- (3) 社会環境改善のための地域ぐるみの取組の拡充を図る。
- (4) いのちの教育を含めた「生き方に関する指導」の充実を図る。

今回の協議会では、子どもの犯罪・非行の防止に焦点を当て、万引き撲滅に向けた取組について協議しました。子どもたちの規範意識と正義感の醸成のために、家庭・学校・地域社会が一体となって子どもたちの健全育成に取り組むことの重要性を確認しました。

これからの時代を **たくましく生き抜く力** を育む

日本がメダル獲得数で過去最高を記録した平昌オリンピックが閉幕しました。今回のオリンピックでも数々の感動の場面とエピソードがありました。中でもこれまでの冬季五輪を通じて1000個目となる記念すべき金メダルを手にした羽生結弦選手の演技には多くの人が胸を打たれたことでしょう。右足を痛め満身創痍での出場でしたが、痛みに耐え最後まで力を振り絞り、自分を信じて滑走した羽生選手の忍耐力や精神力には感服します。

様々な困難を乗り越え、やると決めたことをやり通す力は、どのようにしたら身に付くのでしょうか。

忍耐力や精神力は、教育論の中で「非認知能力」と呼ばれ、今このような力の重要性が注目されています。

「意欲」「忍耐力」「社交性」「自尊心」などの非認知能力は、IQ（知能）や学力テストの点数などで数値化される認知能力と違って、数値化が難しい力とされ、社会の一員として生きていくための基礎となるものと言われています。

先般の「八戸市青少年問題協議会」でも、感情をコントロールする自制心などの非認知能力の育成が大切であるという話題があげられました。

各学校では、道徳教育や様々な体験活動、体育的行事等により、協調性や自制心、思いやる心や忍耐力などを育てています。また、挨拶や返事、学習に向かう姿勢を意識させることで、社会性や集中力なども高めています。

このような生涯にわたって人としての成長を支える力は、学校と家庭が連携して育てていくことが大切です。

ここで、家庭でできる効果的な働きかけの例を紹介します。



○基本的な生活習慣を身に付けさせる。

「あいさつをしっかり交わし合う」「寝る・起きる時間・学習時間など時間管理をさせる」「朝食を食べさせる」「インターネット利用に関する約束をつくり守らせる」など

○子ども自身が行う選択を見守る。

子どもの行動の隅々にまで指示を出すのではなく、「～は、どうする？お母さんは～と思うけど」と問いかけましょう。子どもが自主性をもって、少しずつ自立に向かえるように見守っていきましょう。

○自己肯定感（自分には価値があると感じる力）をもたせる言葉がけをする。

「あなたがいてくれて嬉しいよ」

「(些細なことでも)よくできたね。きっとできると思っていたよ。」

自分がいること、行ったことを喜んでくれる人がいると思うことで自分の存在価値を感じ、自分自身が大切な存在だと感じることができます。

○失敗しても取組の過程をほめる。

たとえ失敗しても、結果だけに目を向けるのではなく、自分で決めたこと、辛さを乗り越えたことをほめましょう。



学校や地域での取組や家庭での温かい言葉がけで、子どもたちがこれからの社会をたくましく生き抜く力を身に付けていくことができるようサポートしていきましょう。